

時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ようじむ ねん はるごう
幼児向け 2024年 春号

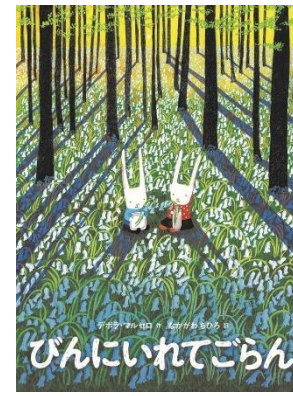


うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。

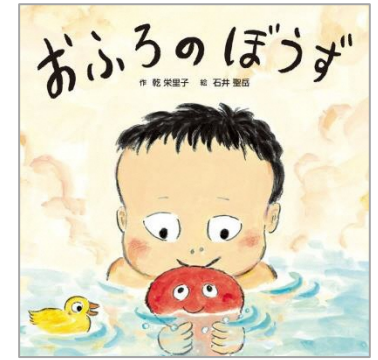


「びんにいれてごらん」

デボラ・マルセロ/作 なかがわ ちひろ/訳
(光村教育図書)

うさぎのルウェリンはいろいろなものをびんにあつめています。とりの羽や木の実、雨上がりの虹やひんやりした風、波の音まで。あとでびんをあけると、その時のことを思い出せるから。とおくにひっこしたともだちに送ったびんにはたくさんのながれ星。おかえしにとどいたのは…。

あなたなら何を入れるかな？



「おふろのぼうず」

乾 栄里子/作 石井 聖岳/絵 (ひさかたチャイルド)

ふーちゃんがおとうさんとおふろにはいります。タオルをふうせんみたいにふくらませると…赤いタオルのたこぼうずがでてきたよ！たこぼうずが、足のうらをこちょこちょくすぐってきた～。次は青いタオルで、なにぼうずがでてくるかな？

読んだあとは、おふろでタオルのぼうずをつくってみてね♪

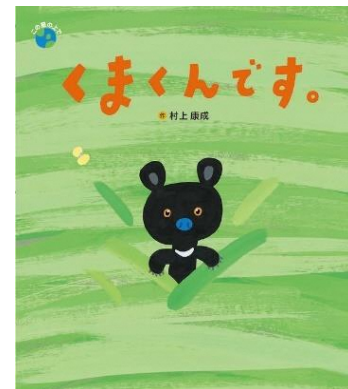


「もりのひなまつり」

こいで やすこ/さく (福音館書店)

ねずみばあさんは森のそばの家のくらしにすんでいます。春も近いある日の朝、森の“のねずみこどもかい”から、ねずみばあさんに手紙がとどきました。「ねずみばあちゃん いっしょうのおねがいでチュ！！ おひなさまをもりへつれてきてください。」

ばあさんが手紙を読んでいると、はこの中にいるおひなさま達の声が聞こえてきて…。おひなさまたちの大移動のはじまり！



「くまくんです。」

村上 康成/作 (ひさかたチャイルド)

冬眠からさめたくまの親子。春の山で木登りをしたり、いろいろなものを食べ、お母さんくまとくまくんがひとりで暮らしていくための準備が整いました。

ある日、くまくんはむちゅうでキイチゴを食べていました。すると、一緒にいたはずのお母さんがいません。さあ、いよいよくまくんがひとりっきりで生きていく毎日ははじまりました！



「おねえちゃんていいなあ。」

くすのき しげのり/さく 岡田 千晶/え
(佼成出版社)

公園や図書館で見かける、やさしいおねえちゃんたちの姿をながめては、うらやましいとおもっている女の子。

おねえちゃんがほしいとおかあさんにおねがいても「おねえちゃんはおめないの」と言われちゃった。でも…

「おねえちゃんていいなあ」とほっこりする絵本です。



「たんぼぼになりたいくて」

内田 麟太郎/文 南塚 直子/絵 (童心社)

たんぼぼのわたげは、笑いながらとんでいきます。また、たんぼぼになって、みんなに会えるから。

行きたいところはえらべないのに、笑いながらとんでいきます。また、たんぼぼになりたいくて。

カラフルで優しいさし絵が、春にぴったりな1冊。

とぎつちようりつとぎつとしょかん
発行：時津町 立時津図書館